

本人の主体性を大切にする校内別室支援員による支援

不登校生徒の状況

対象生徒は、学業不振と生活リズムの不調、周囲からどのように見られているかの不安があるため長期欠席している生徒である。

具体的な取組

○別室対応による不登校生徒の支援

今年度から校内別室を開室し、利用を希望する生徒がいる場合は、いつでも別室登校ができる環境を整えた。



○利用の記録

別室を利用する生徒の記録を毎回本人に記入をしてもらいファイリングしている。職員室で保管している。

年 級 () 生徒氏名	
令和 年 月 日 ()	利用時間 ()
登校時刻	下校時刻
登校理由	下校理由
学習内容(活動内容)	備考
1校時	
2校時	
3校時	
4校時	
給食	
5校時	
6校時	
メモ	

○登校カード

生徒が別室に登校したことを担任に伝えるカードを活用作成した。帰宅予定時間は何時か、給食をどこで食べるか、別室まで担任に届けてほしいか等も記入できる。

担任	先生△
月 日 () 時 分	
年 組 番	
名前	
給 食 (別 室 ・ 教 室)	
受け取り方法(別室まで通ず・教室で受け取る)	
連絡事項(遅刻・早退理由等)	

○校内別室支援員による対応

校内別室支援員は、学習の見守り、学習支援、会話等を通じて生徒の対応をする。対応した報告書を校内別室支援員間で共有し、生活指導主任や管理職に報告する流れになっている。



成果

好きなタイミングで利用してもよい校内別室における登校したときの記録やカードの利用、校内別室支援員による生徒のニーズに合わせた学習活動によって、当該生徒の不安を取り除くことができ、徐々に登校日数が増えた。

課題

当該生徒が教室に継続的に登校できるように学習支援を行い、必要に応じて相談できるように支援をしていく。

相談してから学習へ、SCと不登校対応巡回教員の連携した取組

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校時代、私立小学校に在籍したため、学校に友達がいない。また、学習面に不安がある。現在、相談室に来てSCと話すことができている。

具体的な取組

○ハートフルウィーク（居場所づくり）

全校生徒が全職員の中から相談相手を指名して会話をする機会を設けている。15分程度の時間で夏休み明けに実施している。教員は生徒を指導するのではなく、生徒の話を傾聴し、リラックスした雰囲気の中で会話をしている。



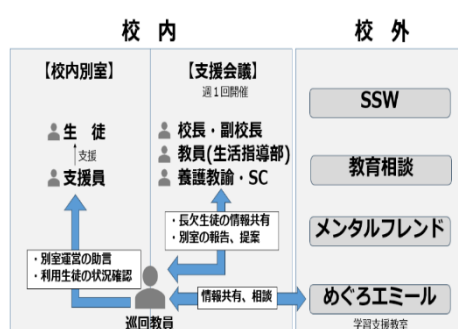
○生徒会企画のプチ運動会（絆づくり）

生徒会企画のプチ運動会を昼休みに3日連続して実施した。種目は、生徒会が考え、各クラスで参加希望者を募集し、3日間連続で昼休みに実施をした。参加をしない生徒も観客として集まり、生徒同士が絆を深める機会となった。



○校内体制

校内別室を開室し支援会議で情報共有をしている。



○別室対応

校内別室を開室し、校内別室支援員や不登校対応巡回教員が別室に常駐している。



成果

校内別室を利用しながら、当該生徒は、教室復帰することができた。

課題

欠席が増えてきた段階で校内別室を利用して、一時的な落ち着ける場所として校内別室を利用できるようにしていく。

担任等による様々な支援

不登校生徒の状況

対象生徒は、周囲からどのように見られているか不安で、自分に自信がない様子である。小学校の頃から不登校状態であったため、どのように友人と関係を築いたらよいか分からない。

具体的な取組

○居場所づくり

・学年レク

学級委員が中心となり、レクリエーションを企画する。

・強みシート

クラスメイトの良いところを挙げ、1枚のシートにする。三者面談等に活用する。



○ふれあい週間

夏休み明けに、生徒が希望する教員と面談ができる。

成果

当該生徒は、教室で定期的に給食を食べ、同級生とも会話をするようになり、一部の授業にも参加をすることができた。また、定期考査を受けることができた。テストの結果からも学習の効果が見受けられた。

○絆づくり

・団結タイム（運動会）

各学年の実行委員が中心となり、色別種目の前に行く。



・落ち葉スターズ

美化委員が主催するボランティア活動である。



○学校外の公的機関等との連携

教育支援センターの支援員が校内別室に訪問し、生徒の様子を観察するなど、学校との連携を強めて支援をする体制ができています。また、SSWとの連携もこまめに行っている。

課題

別室に登校できない生徒対応の充実を図る。巡回教員が保護者面談等を実施するなどして支援の幅を広げていく。

在籍学級とのつながりを大切にする取組

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校入学当初から定期的に休むことがあったが、夏季休業明けから欠席が続くようになった。保護者から、当該生徒が教室に入れないため、別室での対応をしてほしいと、学校に相談があった。

具体的な取組

○校内体制

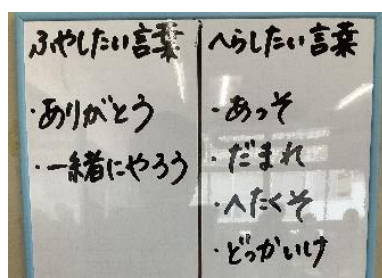
学級担任、養護教諭、その他の教員、S Cによるサポートで登校を促す。また、企画会、職員会議、教育相談連絡会などの様々な会議や不登校対応巡回教員、S C、教育支援センターとの連携を行い組織的な対応を行う。

○関係機関との連携の在り方

S S Wを活用し、生徒がおかれている環境に働きかけて、家庭支援センター等との関係機関につなぐ。また、大学生の支援員を活用し、地域の大人との関わりを通して、人と関わる楽しさなど多様な人生観を学び、自発的な登校意欲につなげている。

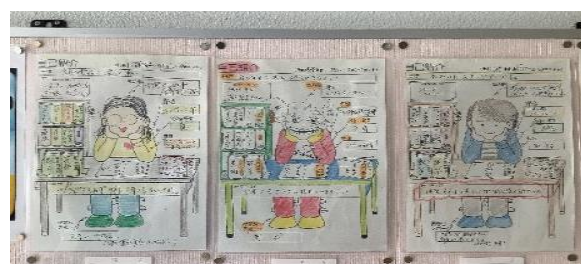
○居場所づくり（安心できる場づくり）

S Cによる全員面談や、相談室や保健室での居場所づくりを行っている。また、教員による家庭訪問やいじめ防止の行動宣言を行っている。



○生徒同士の絆づくり

合唱コンクールなどの学校行事を通して、生徒同士が交流を活発にできるようにしている。



成果

S Cや不登校対応巡回教員だけでなく、担任も積極的に当該生徒に関わり、教室復帰を促していくことで、教室に入ることができるようになった。さらに、校内別室に毎日通っていたが、自分の意思で授業に出ることができるようになった。

課題

不登校の生徒に対して多様な対応方法を検討するとともに、魅力ある学校づくりを目指し、不登校を生まない体制をつくる。

校内別室支援員を配置して、いつでも別室登校ができるように

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校から不登校で、毎週、SCと担任と面談をしている。給食や特定の授業に苦手意識がある。保護者は学校への登校を望む一方で、当該生徒の意思を尊重している。

具体的な取組

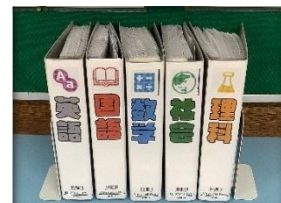
○校内別室の設置

使用頻度の少ない「調理室」を別室として開室し、調理台にカーテンを敷いて学習環境を整えた。パーティションを設置して個別ブースを整備し、窓ガラスには目隠しシートを張った。



○デジタル機器を活用した支援

タブレットを使用した動画学習の環境を整備した。学習項目を一覧化して掲示し、学習内容の見通しを立てられるようにした。支援員は動画の学習プリントを印刷して生徒に配布している。



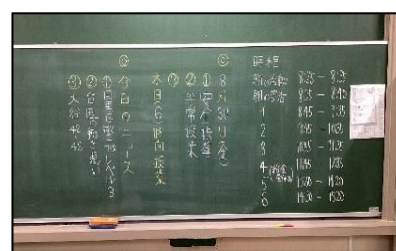
○登校早退通知カード

生徒が別室に登校したことを担任に伝えるカードで、給食をどこで食べるか、別室まで担任に届けてほしいかを記入する。

校内別室指導教室	
登校・早退通知カード	
担任	先生△
月 日 () 時 分	
年 組 番	
名前	
給 食 (別室・教室)	
受け取り方法(別室まで導く・教室で受け取る)	
連絡事項(遅刻・早退理由等)	

○支援員によるニュースのお知らせ

支援員がその日の明るいニュースを板書している。



成果

校内別室支援員が毎日いることで、生徒がいつでも校内別室を利用できるようになった。支援員は学習の見守りを中心に行い、不登校対応巡回教員は学習指導をするなどして、様々な側面から生徒をサポートできるようになった。

課題

不登校対応巡回教員や校内別室支援員により学習の見守り以外の支援を充実していく。